

## 特色ある学校

### 少子化に向けての 教育課題 入試制度改革 —くくり募集と宮工の教育改革—

宮崎県立宮崎工業高等学校 高妻和彦(13年度まで校長)



#### 1. はじめに

本校は明治38年、宮崎郡立甲種職業学校として設立された。

その後、郡立工業学校、宮崎県工業講習所、宮崎県宮崎工業学校、県立宮崎工業学校、宮崎県立宮崎工業学校、宮崎県立宮崎大淀高等学校と時代の要請に応えつつ、昭和40年に、現在の宮崎県立宮崎工業高等学校と校名を変え現在に至り、本年度で創立97年を迎える。

設置学科は、全日制課程が機械（1学年3クラス）、電気（1学年2クラス）、電子（1学年1クラス）、建築（1学年1クラス）、化学工業（1学年1クラス）、インテリア（1学年1クラス）、計6学科、学年クラス数9学級規模の学校である。

また、定時制課程が機械、電気、建築の学科(各学科学年1クラス)計3学科、学年3学級を設置する。宮崎県の工業高等学校の中心校としての自負を、職員・生徒・保護者も持っている学校である。

ロケーションは、宮崎県の中央を流れる大淀川の南端天満の丘にあり、宮崎市の中心部から1.5kmの距離に位置し、学ぶ環境にはめぐまれた学校である。

#### 2. 社会の変化と本校教育

工業教育をとりまく社会は、「少子化ととも

に多様化」「生きる力とともに自発・創造」「IT技術の進展とともに技術革新」など、社会の変化の渦中にある。

また、14年度から実施の完全学校5日制の実施や評議員制度など、いろいろな制度の導入とともに、21世紀初頭の工業教育を行う者として、工業人を育てる新鮮な感覚と力強い取り組みが特に求められ、工業教育の飛躍という課題が与えられていると言っても過言ではない。宮崎工業高等学校に2回目の勤務となった2年間、「宮工」教育の飛躍を考えるに当たって、学科構成、教育課程、教育方針の明確化や具体的な展開を考える前に、まず工業にたずさわる人の育成、人格や人柄に代表される人（工業人）ということからのスタートを考えた。創立100年（2005年）にもなる宮工（宮崎工業高等学校）の卒業生の活躍をみると「自信と誇り」という言葉が頭をかすめる。それから、宮工の飛躍ということに想いをめぐらせるとき、「自信と誇り」を根底に取り組むこととした。

“生徒も保護者も教師も「自信と誇り」のもてる学校を三位一体となって創ろう”生徒は「宮工」に学んでいることに、保護者は我が子が「宮工」で学んでいることに、教師は「宮工」で教鞭を執っていることに、持とう「自信と誇り」を、授業の1時間、1時間（顕在的カリキュラム）、この顕在的カリキュラムと、

学校全体を支える生徒たちの覇気や切れのいい挨拶、学校全体を包む明るいムード、朝練・夕練と頑張る部活の生徒たちの取り組みや、かけ声、試合での成果（潜在的なカリキュラム）、これらが「宮工」を包み込み引き締まった空気をつくり、確かな学校としての存在（在り方）を支える。それは、新しい時代の教育のコンセプト「生きる力と個をそだてる」、宮工の教育そのものであり、まさに少子化時代の教育テーマである。

### （１）あたえられた教育課題

平成12年度の1学期の終わり、県教育委員会から、平成13年4月の入学生の入試から「くくり募集」で取り組んでほしいとの要請があった。

本校は6学科とも募集定員を割ることなく、ここ数年、生徒募集はできている。その必要はないという意見が職員の大半であった。

しかし、6学科には入りやすい学科、入りにくい学科という具合に序列がついている。

本校を希望する中学3年生は、中学校の面談で、あなたの希望する学科は難易度からみると難しいので別の学科に志願変更をということが進路指導の常となっている。学科の序列（難易度）の選択で入学するのではなく、入学後の努力の結果、努力という自分の責任で学科が決定できる、その方が自然ではないか、くくりという系の中で学科を体験し理解して自分の責任で自らの将来を考えて学びたい学科を学科群の系の中で選択しチャレンジする。その方が自然であり、公平である。

検討会議の中での意見であり、教師たちの検討の結果、各学科の努力次第で学科序列はなくなるということになった。

くくりでは、系（3学科ずつの2系）の中での取り組みであり、自科の何をアピールするか各学科で検討が活発に行われた。

- 授業での勝負であり、学科の魅力づくりである。
- 学科の魅力として資格へのチャレンジであり、資格取得後の増加単位である。
- 取得した資格を基礎に就職・進学という出口での資格活用である。

「教師の努力」が生徒を巻き込み、前に、前にとすこしずつ動きだした。

この動きは、学年・学科という教師側の努力と生徒のヤル気が資格にチャレンジという雰囲気を作り、学年全体にひろがった。

特に、くくり募集で入学した1年生の科目指導では、学科の科目内容や「工業基礎」のテーマの検討や実施以上に、学科における資格の取り組みが生徒の選科のポイントとなった。6学科の教師の動きは素晴らしかった。1年次に取れる資格の指導にすぐ入った。その成果として、建築・環境系の1年生が公害防止管理者水質4種に合格した。

各学年をとおして学科間の動きは、担任と学科との連携の深まりとなり、専門教師が資格受験の問題をつくる。担任は、プリントをもとに朝のショートホームルーム前の時間を有効に使って問題演習を行う。生徒は、自己採点の結果を提出し、朝のショートホームルームに入る。このような流れの中で、2年化学工業科の担任（女性数学教師）が生徒とともに危険物取扱者の課外に参加し、自らも生徒と一緒に受験、見事に合格した。生徒たちの合格率も非常によくて生徒は喜び、クラスの雰囲気も最高である。見事な学級経営であった。

このようにして、宮工は生徒が落ち着き、生徒が自信を持ち、担任を誇りとし、地域から認められるというプラスの回転の状態に徐々に入っていった。

宮崎工業高等学校は、「変わります!! 21世紀のスペシャリストの育成を目指して」とい

う標語まで生まれた。教師はまとめ、各学科は資格課外等、今まで以上に力を入れて指導にあたっている。

## (2) 変わります!! 21世紀のスペシャリストの育成を目指して」

### ア. 宮工のくくり募集について

くくり募集検討委員会（学校の運営委員会、カリキュラム委員会、学科主任会等）が、新しい制度導入に向けて、教育委員会が示したぎりぎりの期限まで会議を重ねた。本校独自のカリキュラムづくりであり、指導理念の検討を重ねて、平成13年度の生徒募集から実施することになった。

学科形態は、機械（3）、電気（2）、電子（1）、建築（1）、化学工業（1）、インテリア（1）（かっこ内の数字は各学科の1学年の学級定数）といった学科を基本に考えた2類型のくくり募集である。

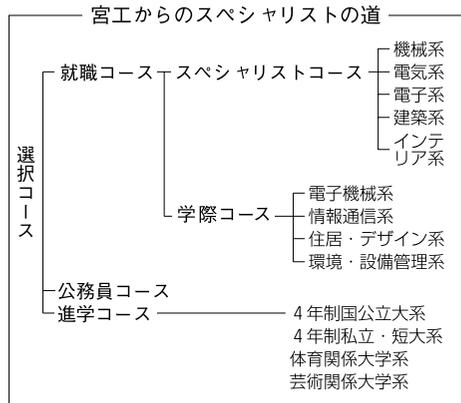
- 機械・電気・電子→生産、情報、制御系の技術的な視点から生産・情報系とし、募集定員240名とした。
- 建築・インテリア・化学工業→住居、空間、環境系の技術的な視点から建築・環境系とし、募集定員120名とした。

### イ. 宮工からのスペシャリストへの道

1年次の後半から(自分の学科決定後)、コースの選択に入る。

生徒募集は生産・情報系240名、建築・環境系120名、合計360名である。受験倍率は、今回14年度入学生の場合1.81倍であった。1学年の半ば（9月）までの間に、選科プログラムを終わり、系の中の各自の努力と責任でもって、学科を決定し、卒業時の希望（就職か進学か）により下記の4コースにチャレンジしていくことになる。

- 就職コース(スペシャリストコース)：より



専門的な工業の技術や知識を身に付け、資格にチャレンジしていく。

- 学際コース 類型中の科目選択により学科の専門を越えた選択ができる。
- 公務員コース 国家三種技術、市・県の行政職、警視庁、県警、消防、自衛官等の希望者。専門学校との学校間連携により専門家の指導を受けたり模擬試験に参加。
- 進学コース 卒業後、4年制大学(国公立・私立等)、短期大学(公立・私立・職能短大)、体育・芸術系大学(部活動等により特技をさらに伸ばす者)

## 3. 確かな学校づくり

### ア. 入口へのこだわり

入学という入り口にこだわる。中学校の理解度である。教育内容や卒業後の就職・進学という出口の成果を知ってほしい。現代は普通科指向といえども、普通科も定員を割る時代である。こういう時代だからこそ、元気のある宮工としての生き残りをかけてのチャレンジであり、宮工からの発信である。

### ●宮崎工業高等学校学校展

目的：各教科、学科、特別活動などにおける平素の学習や活動の成果を発表し、生徒の自発的な活動を推進するとともに、宮工の取

り組みと成果を小中学生，社会人，教育関係者などに広く伝え，中学生の進路決定の一助にするとともに，さわやかな宮工生を広く知ってもらいきっかけとする。

会場：宮交シティ（宮崎市のバスの発着点）を会場に，12月7～9日（金～日），学校紹介（部活動・学科・卒業生の進路等）・展示・実演・課題研究作品発表，中学生の進路相談，等を行った。産業教育フェアの宮工ミニ版である。見学者には学校展のコメントを願ひし，今後の計画と平常の教育活動の力とし，次回の企画の参考にする。

#### ●新聞に見る宮工生の活躍

各新聞で紹介のあった宮工の記事は，A4版41ページにもなる。生徒の活躍ぶりを小誌にまとめ，中学校の高等学校説明会や体験入学で活用する。



宮工学校展入場口 於：紫陽花ホール



自動車部 ソーラカー，M-II号 湖国  
12時間耐久レース232km完走，全国2位



〔01/25宮日日新聞〕インテリア技術部，師井千恵美をリーダーにカーヌー製作

#### イ. 出口へのこだわり

●確かな学校＝卒業という生徒の出口のニーズへの対応がしっかりし，落ち着いていることである。就職も進学も可能な学校としての取り組みが必要である。

平成13年度生の就職状況は，民間企業128名希望，100%決定。公務員19名，計147名である。

民間企業を希望した生徒たちの就職は，特に厳しかった。公務関係の就職も同じく厳しい中147名（100%）が決定した。

平成13年度生の進学状況は，公立4年制・短期大学に21名が進学（内宮崎大学工学部11名，近年の快挙であり私立4年生大学を含めると72名が進学した。公立短期大学は特技の美術を生かして）。

#### 4. おわりに

くくり募集という制度を生かし，入学という本校への入り口の新たなコンセプトづくりで学校が動いた。現在の2年生が，宮工くくり募集の1期生である。このくくり募集の1期生が3年時に，さらなる飛躍が期待できるところである。